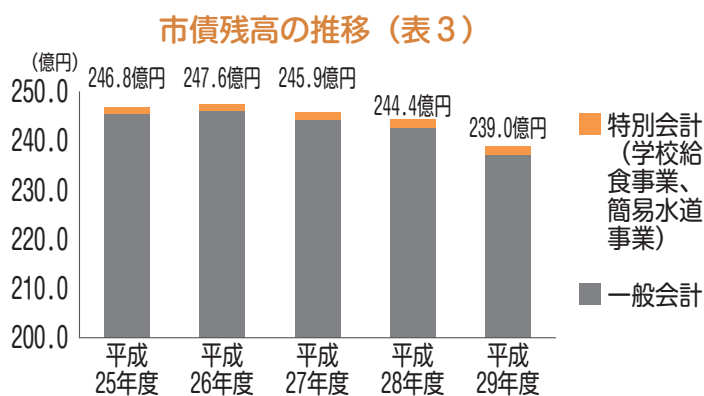


市の借金(市債)

市は、道路や公共施設など、将来にわたって利用される施設を整備するときに、国や金融機関から長期間で返済する資金を借り入れており、これらの借金を『市債』といいます。平成29年度の市債残高は、道路整備のために借り入れた資金の一部の返済を終えたことなどから、前年度に比べ5.4億円の減少となりました(表3)。

一般会計の公債費(借金の返済額)については、26・0億円となり、支出全体に占める割合は12・6割で、



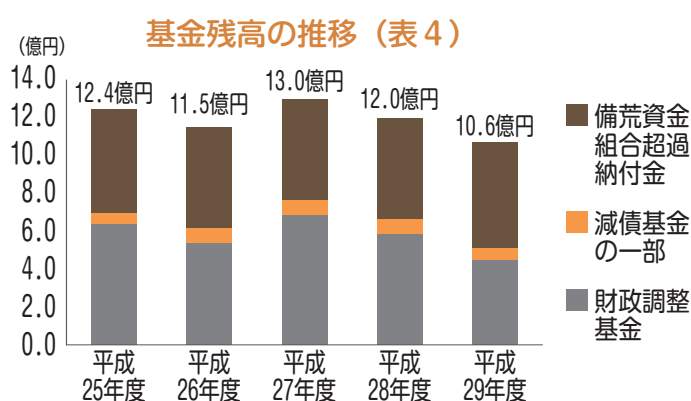
前年度に比べ0.2億円の減少となりました。

平成29年度の市債残高・公債費は前年度に比べ、ともに減少しました。

市の預金(基金)

市は、財源の調整を図るほか、特定の事業に使用するために、基金を積み立てています。

平成29年度は、厳しい財政状況のなか、収入の不足分を補うために、財政調整基金の取り崩しを行ったため、基金残高は10・6億円となり、前年度に比べ14億円の減少となりました(表4)。



これからの市の台所事情

平成30年度の一般会計当初予算では、209・7億円の支出に対して、204・0億円の収入しか見込めず、5億円の財源不足が生じました。

この財源不足については、全額を基金などの取り崩しで対応する予定であるため、今後、財政が好転せず、財源不足が解消されない場合には、平成30年度末の基金残高は4.9億円まで減少することとなります。

平成30年度の財政運営にあたっては、適切に収入を確保することはもちろん、不要な支出がないか、これまで以上にチェックを重ねるなど、限られた財源の有効活用を図ります。今後も高齢化の進展などによる社会保障費の増加に加え、小・中学校施設の耐震化や改修、老朽化した公共施設の整備、インフラの長寿命化

など、さまざまな事業が控えており、多くのお金が必要となります。

また、市民の皆さんから納めていただく税金は、人口の減少が進んでいることから、今後大きく増加することは見込めず、国から交付される地方交付税についても、国の動向によっては減少する可能性もあり、厳しい財政運営が続くものと見込まれます。

市民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供しながら、必要性の高い事業に順次取り組むため、事業の効率性を常に検証し、改善していくとともに、社会情勢や時代の変化などにより、不要となったサービスの見直しを図るなど、計画的で健全な財政運営が図られるよう努めます。

解説します



なぜ利子を払ってまで借金をするのかというと、道路や建物の整備には多額の費用がかかるため、建設時の市民だけでは大きな負担となってしまうほか、その他の事業が何もできなくなってしまうからです。

そのため、道路や建物など、長い間使うものは、将来の世代の人たちにも公平に負担していただく必要があります。

